

DPC導入の影響評価に係る調査項目及び評価の視点

調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
<p>(診断群分類の妥当性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 診断群分類の該当率</li> <li>○ 診断群分類の構成割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包括評価制度の導入前後を比較して、類似の DPC で1日当たり点数が高く、かつ、在院日数の基準日が高い群へのシフトがないか。</li> <li>○ 包括評価制度の導入前後を比較して、診断群分類点数表による請求額と医科点数表に基づく出来高算定との差額が大きい診断群分類に該当する患者の割合が低下していないか。(ばらつきの多い診断群分類の該当率が低下し、ばらつきの小さい診断群分類の該当率が増加していないか。)</li> <li>○ 包括評価制度の導入前後を比較して、同一疾患群における出来高算定と包括算定の割合が変化していないか。</li> <li>○ 高齢者などのハイリスク患者の率が低下していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>-</li> </ul>	<p>診断群分類別件数 (平成14年・平成15年)</p> <p>(同上)</p> <p>(同上)</p> <p>※ 「ハイリスク」の定義が必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アウトライヤーの状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包括評価制度の導入前後を比較して、特定入院期間を超える率や出来高点数と包括点数の乖離が一定以上の率が変化していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包括範囲点数及び在院日数のばらつき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ばらつきの原因として、年齢、重症度、看護必要度などの患者特性、地域特性 (後方病院の整備状況等、他医療機関との連携状況)、病院の管理体制 (退院基準の設定状況) が影響していないか。(小規模な聞き取り調査の実施とその結果を受けた大規模調査を検討。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-</li> </ul>	<p>※ どのような地域特性、病院の管理体制をどのように把握するか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ DPC 変更率、変更理由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合併症の増加による DPC の変更が増加していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-</li> </ul>	<p>※ 請求した診断群分類の変更は把握可能。</p>

把握の可否：現在実施している診断群分類見直しのための調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「-」を記載



調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 薬剤・医療材料の使用状況</li> <li>○ 検査・画像診断等の実施状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包括評価制度の導入前後を比較して、薬剤、医療材料の使用状況が変化していないか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括評価制度の導入前後を比較して、γグロブリン製剤、制吐剤、ステロイド剤等の使用状況が変化していないか。</li> <li>・ 包括評価制度の導入前後を比較して、高額な抗がん剤の使用状況が変化していないか。</li> <li>・ 適応外使用の状況がどうなっているか。</li> <li>・ 後発医薬品の採用状況がどうなっているか。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△</li> <li>—</li> <li>—</li> <li>—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ <u>どのような変化があれば使用状況の変化があったとするか。</u></li> <li>※ <u>比較すべき先発品と後発品のリストアップが必要。</u></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包括評価制度の導入前後を比較して、検査等の実施状況が変化していないか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括評価制度の導入前後を比較して、画像診断、病理組織検査、時間を要する高度な検査の実施状況が変化していないか。</li> <li>・ 包括評価制度の導入前後を比較して、外来にうつせるような、他医療機関で実施できるような検査、投薬の実施状況が変化していないか。(特定の診断群分類について評価することを検討。)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△</li> <li>—</li> <li>—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ <u>どのような変化があれば実施状況の変化があったとするか。</u></li> <li>※ <u>具体的にどのような検査、投薬か。</u></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包括評価制度の導入前後を比較して、中心静脈注射による高カロリー輸液療法の実施状況が変化していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ハイリスク患者、または重症例の過小診療が行われていないか。合併症、併存症に対する治療が適切に行われているか。転科して治療を行う率が低下していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ <u>ハイリスク、重症例の定義をどうするか。</u></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手術等の出来高となっている診療行為の実施状況が変化していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ <u>どのような変化があれば変化があったと判断するか。</u></li> </ul>

把握の可否：現在実施している診断群分類見直しのための調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「—」を記載

調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
○ 医療の達成度、患者満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主治医の入院目的の達成度が変化していないか。</li> <li>○ D P C 毎の退院基準の設定状況がどうなっているか。</li> <li>○ 患者満足度が変化していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> <li>—</li> <li>—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ <u>調査票の設計が必要。</u></li> <li>※ <u>調査票の設計が必要。</u></li> <li>※ <u>調査票の設計が必要。</u></li> </ul>
○ アウトカム評価、臨床指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手術の成功率、外科手術における再手術率、救急外来受診率、5年生存率が変化していないか。 (本項目については、現時点では評価のためのデータの収集が困難ではないかとの意見があった。)</li> <li>○ 化学療法などが外来にシフトしたことによって、患者の QOL などが変化していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> <li>—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ <u>どのような調査が可能か。</u></li> <li>※ <u>どのような調査が可能か。</u></li> </ul>
○ 看護の必要度	○ 看護の必要度が変化していないか。(既存のデータの活用も検討。)	—	※ <u>どのような既存のデータが存在するか。</u>

把握の可否：現在実施している診断群分類見直しのための調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「—」を記載

調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
<p>(医療機関の機能の変化)</p> <p>○ 高度医療の提供実績</p> <p>○ 教育研修機能</p> <p>○ 地域医療との連携状況</p> <p>○ 医療の質に関する取り組み</p> <p>○ 医療の提供体制</p>	<p>○ 高度先進医療、臓器移植、治験の種類と数が増加していないか。</p> <p>○ 新医療技術の導入が阻害されていないか。包括評価導入後薬価基準に新たに追加された薬剤の使用が阻害されていないか。</p> <p>○ 教育研修機能が変化していないか。</p> <p>○ 地域医療との連携状況の違いに地域特性が影響していないか。</p> <p>○ 院内委員会の設置状況はどうか。</p> <p>○ クリニカルパスの数と適用数はどう変化するか。</p> <p>○ 組織、マンパワーが増加していないか。</p> <p>○ 看護師比率などが変化していないか。(在院日数が短くなった医療機関を重点的に調査することを検討)</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>△</p>	<p>※ <u>どのような変化があれば変化があったと判断するか。</u></p> <p>※ <u>どのような調査が可能か。</u></p> <p>※ <u>どのような調査が可能か。</u></p> <p>※ <u>どのような調査が可能か。</u></p> <p>※ <u>調査票の設計が必要。</u></p> <p>※ <u>調査票の設計が必要。</u></p> <p>※ <u>調査票の設計が必要。</u></p> <p>※ <u>調査票の設計が必要。</u></p>

把握の可否：現在実施している診断群分類見直しのための調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「—」を記載